

## 平成23年度 広報・広聴特別委員会活動報告

### 1. 今年度の活動経過

本委員会は平成23年5月に設置され、開かれた議会の実現に必要な広報・広聴機能の調査・研究に積極的に取り組んでいる。

今年度は下表のとおり、委員会開催の他、県内外の先進的な事例を視察するとともに、広報のべおかの編集についての研修を行うなど、広報・広聴に関する様々な事例を検証したところである。

	開催月日	調査内容
1	H23. 6. 29	*今年度の活動方針の協議
2	H23. 7. 19	*シティミーティング／議会活動報告会（以降、CM）の今年度開催案の協議
3	H23. 8. 17	*議会におけるこれからの広報・広聴に関する協議 （議会だより、ネット中継、FMの活用、土日・夜間議会など） *今年度CM開催案の協議
4	H23. 9. 6	*議会だよりの見直し、ネットの活用に関する協議
5	H23. 9. 22	〃
6	H23.10. 4	*議会だよりに関する協議
7	H23.10.14	*広報・広聴アンケートに関する協議
8	H23.11.10	*勉強会（広報のべおかの編集とカラー化）
※	H23.11.15 ～11.17	行政視察（大分市、山口県防府市）
9	H23.12.14	*議会だよりに関する協議
※	H24. 1.12	*行政視察（高千穂町）
10	H24. 1.16	*今後の委員会活動の取り組みについて
11	H24. 2.28	*今年度の活動報告に関する協議
12	H24. 3.21	*今年度の活動報告の総括

### 2. 今年度の重点調査事項について

本委員会では、昨年設置以降、議会の広報・広聴機能をより強化するための手法を検討しているが、すでに本市議会でも実施しているものも含め、議会だより、インターネット中継、ホームページ、市民との意見交換会、議会報告会

などこの分野には数多くの項目がある。委員会では、活動による効果を上げるため、それぞれの項目を広く浅く調査するのではなく、集中して調査を進めることにした。今年度は活動を始めてから歴史の長い「議会だより」に着目し、集中的に協議を重ねてきた。

現在の議会だよりは、A4版の白黒印刷8ページの冊子であり、平成12年1月の創刊以来、現在まで50号が発行されている。定例会で審議された議案や、一般質問の質疑・答弁、最近の議会活動の状況などについて、本委員会で編集し、定例会の翌月末に発行している。

議会だよりについては、市民よりたびたび「文字が多すぎて読みづらい」「内容がよくわからない」というような苦情が寄せられている。また、それ以上に市民に読まれていない状況がある。本委員会では、議会だよりを検証し、これらの状況について検討した結果、議会だよりを見直していくことが広報・広聴機能の強化に有効であるとの結論に至ったところである。

### 3. 先進地視察について

#### (1) 議会だよりに関する比較

本委員会では、昨年11月に大分市と山口県防府市において、広報・広聴に関する議会の取り組み状況を視察した。また、本年1月には、高千穂町でも議会だよりの取り組み状況を視察したほか、本市当局にも「広報のべおか」の編集・発行の取り組みについて調査を行った。

今年度の重点調査事項である議会だより（当局は「広報のべおか」）についての状況は次ページの表のとおりである。

この表からいえることは、どの広報紙に関しても見やすさやわかりやすさに配慮していることがわかる。レイアウトをすっきり見せる工夫や、写真や文字を大きめにするなど、手に取りやすくするようにしている。また、色数にしても、カラーまたは2色刷りである。本市の議会だよりの白黒印刷よりもはるかに目につきやすい。その上で、読みやすい広報紙となれば、読者の数は増加してくると思われる。

その他、ページ数が本市の8ページよりも多い。これにより、他市町の広報紙は掲載スペースに余裕ができ、見やすい広報紙づくりにつながっているようである。ただし、印刷代がかなり上昇するので、現時点での本市の議会だよりへの適用は財政的には難しいと思われる。

視察先の広報紙の比較

議会名	大分市	防府市	高千穂町	(当局)
広報紙名	おおいた市議会だより	ほうふ市議会だより	議会だよりたかちほ	広報のべおか
大きさ	A4版	A4版	A4版	A4版
色数	カラー	2色	表紙・裏表紙のみカラー。 中身は2色。	表紙・裏表紙のみカラー。 中身は原則2色 (時々カラーあり)。
ページ数	12	12～16	原則10～20	20～28
編集方法	広報委員会が担当。ただし、一般質問のみ議員が作成。残りは事務局。	広報編集委員会6名により作成。	議会報編集委員会で作成。	経営政策課職員
特徴	4段組を採用。写真や図を大きめに設定。レイアウトをすっきりさせている。	わかりやすい文章、表現を心がけている。表紙は年間分を年度当初に協議。写真、文字を大きくしている。	手にとってもらうことを優先。文字を詰めないようにしている。	特集号など強調したいときは、カラーページを増やしている。

(2) 議会だより以外の広報・広聴に関する他市町の状況

視察については、議会だより以外にも、数々の項目について調査を行った。中には、本市議会で実施していない項目もあり、今後の本市議会における広報・広聴活動の展開を考えるのに大いに参考になったところである。

■大分市(11月15日視察)

①市民意見交換会

- ・平成20年度から始めており、市内13カ所の地区公民館で実施。
- ・議会活性化推進会議で実施方法を調整する。
- ・議会のしくみや活動状況を説明し、昨年の会での要望等に関する取り組みの経過報告なども行う。
- ・地元の議員と、5つの常任委員会及び議員活性化推進会議から各1名ずつ参加したグループで議員側は構成される。これにより、どんな分野の質問にも対応することができる。運営もすべて議員で行う。
- ・PRのため、議員自ら中心市街地や郊外地で案内付のティッシュ配布を行う。5000個を2日間かけて配布。1人あたり1日で40個配布する。
- ・個人の要望は受け付けない。

■防府市（11月16日視察）

①議会懇談会

- ・市民からの申込みにより、設定されたテーマについて議員と意見交換する会議。
- ・平成23年度は学校給食関係のことなどがテーマだった。
- ・常任委員会のメンバーが対応する。

②議会報告会

- ・議会側から市民に向けて、議会活動を報告する会議。
- ・市民に議会活動について正しく理解してもらうことを目的とする。
- ・小学校区単位で開催。1会場平均約30名が参加。
- ・すべての常任委員会の議員が1人入るようにグループが構成される。

③インターネット中継

- ・平成23年6月定例会から本会議の一般質問についてライブと録画を配信している。
- ・市外の関係者にも視聴可能なところが長所。
- ・将来は、本会議すべてのライブ・中継録画を考えている。

④議会モニター

- ・本年から本格的に実施。定例会ごとにA4版1枚分の報告書を提出している。期間は1年半。

⑤その他

- ・委員会も傍聴が可能であり、ホームページの中で傍聴に関する案内を告知している。
- ・開会前の傍聴に関する承諾も現在は諮っていない。

## 4. 1年間の活動をふりかえって

年間の活動を通じて、本委員会では、議会だよりについて、どんなに内容が優れていても、手にとって読まれない限りはよい広報紙とは言えないとの意見で一致した。手にとってもらえる手段として、今後は2色刷りを行い、まず、目につきやすいものにしていくことを優先的に考えたところである。

なお、その次の段階としては、中身の見直しを行わなければならないと考える。例えば、一般質問ごとの質問者の名前や写真の掲載を現在は行っていないが、市民への開かれた議会づくりへの効果や、市民へのPR面を考えたときに、

議会だより創刊時とは議会をとりまく状況が異なっている。市民アンケート調査等による議会だよりの分析や、大分市で採用されている4段組みなどレイアウトの刷新ともあわせて、今後はあらためて検討する必要があると思われる。

また、議員編集による議会だより作成も今後の検討課題としてあげられる。現在は一般質問のページの原稿のみ議員が作成しているが、今後は視察先でもみられたように議員による編集の可能性を模索したいと考えている。その実現のためには、議員を対象とした編集に関する研修等の受講や、勉強会の開催などがあげられるが、この件については来年度以降も調査を進めたいと考えている。

なお、議会だより以外にも、議会における広報・広聴活動については、視察などを通じ説明を受けている。本委員会としては、来年度以降、シティミーティング／議会活動報告会や、インターネット中継、コミュニティFMの活用など他の項目についても調査を行い、引き続き、広報・広聴活動のさらなる充実に努めていかなければならないことを認識したところである。